

合気道 兵庫県

地域社会合気道指導者研修会

毎年恒例の兵庫県（姫路市）地域社会合気道指導者研修会が、二月八日、九日の二日間の日程で、姫路市のウイंक武道館（兵庫県立武道館）にて開催された。

今年には合気会本部より藤巻宏師範、里館潤指導員を招聘し、さらに合気道兵庫県連盟より佐藤裕治（宝塚合気道すみれクラブ代表、合気道兵庫県連盟理事長）、門川努



（大阪合気会神戸支部代表、合気道兵庫）が地元講師として講習を実施した。県内加盟十七団体、百八十三名が本講習会に参加した。

藤巻師範からは、比較的経験の浅い受講者の目線で基本技の捌きについてのご説明があり、それを踏まえて相手との間合いの取り方や、常に周りに気を配ることの大切さ等を応用技や掛かり稽古を通じてご指導していただいた。基本技の捌きからじっくりと確認できたことで受講者の理解も深まり、レベルや経験に関わらず共通の理解のもと、受講者全員が実に興味深く稽古に取り組むことができた。

今回はこれまでで初めての試みとして、姫路市消防局職員の方々を講師として招聘し、稽古中に不慮の事態が発生した場合の心肺蘇生法について講習を実施した。講習用マネキンを使っての胸骨圧迫等の実技講習は実践的でまことに興味深いものであった。

一日目の講習会終了後は、武道館近くの造り酒屋「灘菊」にて恒例の懇親会を実施し、参加五十三名で藤巻師範を囲み、美味しのお酒と楽しい会話で大いに親睦を深めた。

本研修会が大変有意義なものであったということは、二日間の研修会及び懇親会における受講者の表情から如実に感じ取ることができた。

（理事長 佐藤 裕治）

愛媛県 連盟

地域社会武道指導者研修会

愛媛県武道館において、第五回目となる愛媛県（松山市）地域社会武道指導者研修会が二年二月十五、十六の両日、開催された。愛媛県合気道連盟加盟道場十七団体から百二十七人の合気道指導者が参加した。

講師として本部道場から派遣された菅原繁師範と有馬隼人指導員、地元講師として鈴木茂愛媛県合気道連盟参与（七段）と松



田正司同連盟理事長（六段）によって、両日充実した研修会となった。

菅原繁師範には、「相手との間合いを意識し、自らは常に安全な場所を確保しながら技をかけることが大切」などと、武道としての合気道を説かれた。また、応用技では、開祖の動画や写真、そして古参の合気道指導者の技を引用しながら、合気道の技が持つ意味を考えさせながらの指導をして下さった。その中でも、「剣の握り」（小指と薬指を締め）の利を生かした後ろ両手取り、諸手取り呼吸法、「剣の理合い」による手の内で探りながらの両手投げ、連続した「入り身」による入り身投げや小手返し等々、ひとつひとつの技のポイントを細かく丁寧に説明していただき、これまで、経験則で「この方が良く効くな」「これでは効かないな」などと誰もが何となく感じていたことの中に、「なるほど」と納得できるものを幾つも発見することができた。

参加者は、菅原師範に直接手を取って指導していただく一方で、他の道場の会員達とも意欲的に稽古に励み、連盟会員同士の交流の輪を広げる良い機会ともなった。

この度、このような有意義な研修会を開催していただいた、（公財）日本武道館、（公財）合気会をはじめとして、開催にご尽力いただいた関係者の皆様方に深く感謝致します。

（合気道八幡浜道場 小清水 祥孝）

愛知県
連盟

地域社会合気道指導者研修会

令和元年度愛知県(名古屋)地域社会合気道指導者研修会は、二月二十二、二十三日に愛知県武道館において中央講師を宮本鶴藏本部道場指導部師範と日野皓正同部指導員、地元講師を和田昭愛知県合気道連盟名誉会長と澤田俊晴同連盟会長とし開催され、連盟傘下の四十道場より約二百



名が参加した。

二十二日の開講式では、今寺直人(公財)日本武道館振興部普及課主任と酒井正義愛知県公立武道館協議会会長・愛知県武道館館長より主催者挨拶が述べられた。

研修会は二日間で一時間半の実技指導が五回行われ、二十二日は宮本師範、澤田師範による実技指導と、日野指導員による中学校武道必修化に関する実技指導が行われた。

二十三日は和田師範と宮本師範による実技指導が行われた。宮本師範は片手取りや諸手取りを中心に、結びを意識するよう指導された。

澤田師範は膝を使うことで力みを生まない身体の使い方を指導。和田師範は肩取り面打ちを中心に体捌きの重要性を指導。日野指導員からは、段階的な後ろ受身の指導法と注意点などが説明された。

二十三日の閉講式では今寺振興課主任より受講生代表に終了証が授与された。

続いて宮本師範より「楽しく稽古で済ませた。稽古の積み重ねが何よりも大切ですが、指導者の真似をすることが上達につながります。これからの良い稽古を続けてください」と講評があった。

最後に澤田師範より関係各位への謝辞が主管挨拶として述べられ、新型肺炎への細心の注意が払われる中無事に研修会は終了した。

山梨県
連盟

合同講習会

山梨県合気道連盟は、二月二十三日(日)、県内加盟団体による合同講習会を開催しました。インフルエンザや新型肺炎などの影響で、イベントは自粛傾向ではありましたが、稽古は日々の積み重ねの心持ちでの開催に至りました。

県内団体の交流事業として定着し、今回も本部道場より本県出身の藤巻宏師範にお越しいただき、甲府市緑が丘総合体育館武道場での講習会となりました。

稽古は、片手取り正面打の基本技を中心にしつつ、初心者にも分かりやすい指導を頂



きました。一方で、有段者にとっても、技に慣れていく中で、注意が行き届かず雑になっていることへの気付きになるよう、体の前傾や固め技の出会いでの掴み癖、投げ技の後の残心や納めの意識など日頃の稽古の姿勢につながる指導を頂きました。

初心者から有段者まで、大変有意義な稽古会となりました。また、日頃の稽古相手とは違う人達との稽古は、楽しいながらもよい緊張感を生み出していました。今後も、小さい連盟ながら、つながりを密にして地域合気道の発展に寄与できるよう、活動を充実していくことを確認して講習会を終えました。

(山梨県連盟事務局)



ニュージーランド50周年

ニュージーランドにある合気道神流館の五十周年記念講習会が、三月六日から八日まで、オークランド市内にあるバーフット&トンプソンスタジアムにて開催された。

合気道神流館道場は、高瀬信夫師範が大



学卒業後にニュージーランドに渡り、創設した道場である。

本行事では植芝充央本部道場長をはじめとして、全日本合気道連盟・尾崎响理事長、奈良合気会・窪田育弘師範、央名会気

守道場・澤田俊晴師範、大阪合気塾・須磨弘師範、小俣合気会・上埜喜生師範、アイキドウシンボクカイ・リサトモレオ二氏が招待された。

新型コロナウイルスの影響で、参加を辞退する動きもあつたが、ニュージーランドをはじめ、日本、アルゼンチン、オーストラリア、フランス、サモア、タヒチなど十二カ国から総勢約三百五十名の会員が参集した。

講習会では植芝本部道場長と高瀬師範、尾崎師範、窪田師範、澤田師範、須磨師範、上埜師範、トモレオ二師範が指導を行った。植芝本部道場長は講習会の最後の稽古を含む二コマの稽古を指導した。

植芝本部道場長は、稽古全体を通して体捌きや呼吸法が技の中でどのように活かされているかを示し、稽古参加者は真剣に稽古に取り組み、汗を流していた。

六日には在オークランド総領事公邸に植芝本部道場長、神流館関係者がならびに各師範が招待され、菊池稔在オークランド総領事との会食が催され、菊池総領事は「合気道は日本とニュージーランドの良好な関係構築の一助となっており、半世紀にわたってニュージーランドで普及活動に当たられてきた高瀬師範の功績は大きいと感じています」と高瀬師範のこれまでの活動に敬意を表された。

翌七日夜には神流館創設五十周年を祝うパーティーが行われ、来賓として植芝本部道場長と菊池総領事が出席された。

植芝本部道場長は祝辞を「現在のようにニュージーランドで合気道が普及しているのは、高瀬師範がこれまで情熱をもって指導されてきたからだと思います。」

今後とも会員の方々とその輪を広げていっていただければと思います」と述べられた。

また高瀬師範は「今回神流館五十周年記念講習会にご参加いただいた全ての方々に感謝申し上げます。さまざまな紆余曲折を経て来ましたが、吉祥丸道主と守央道主から受けた指導と励ましのおかげで今日まで至ることができました。そしてこれまで自分を支えてくれた妻にも深く感謝しています。これからもニュージーランドでの合気道の普及発展に邁進して参ります」と述べた。

また今回のパーティーでは、マオリの伝統衣装が植芝本部道場長と高瀬師範に贈呈された。会場は高瀬師範を祝う温かい雰囲気にも包まれ、三時間にわたって行われた記念パーティーは、盛況のうちに閉会した。

最終日である八日は高瀬師範の稽古から始まり、昼からの植芝本部道場長の稽古後に演武会が催された。

演武会は一時間行われ、各団体の演武、師範演武と続き、最後に締めくくりとして植芝本部道場長による総合演武が行われ、神流館五十周年記念講習会は興奮冷めやらぬうちに全日程を終了した。

令和2年 春の叙勲

高瀬信夫合気道神流館代表(ニュージーランド代表)は、四月二十九日付けで発令された令和二年春の叙勲で、日本文化普及功労、在留邦人・日系人への福祉功労の功労概要として旭日单光章を受章された。元オークランド日本人会会長。